

北魚沼あぜ道情報

2011年
5月号
JA北魚沼

桜が満開

満開の桜と田んぼの残雪…。
美味しいコシヒカリを作るためには、慌てず騒がず、自然と上手につきあいます



関東方面は葉桜の季節だというのに、新幹線で一時間半の魚沼の地は、田んぼに降り積もった雪が名残惜しげに、春の陽気程度ではなかなか融けてくれません。例年ですと、連休には「田起し作業」が行われます。「田起し作業」とは、雪の重みで硬くなった土を掘り起こし、新鮮な酸素を入れ込む作業です。

この田起し作業は、雪がきちんと消え田んぼが乾いてから実施されます。雪が融けたばかりの田んぼを耕すと土の中の温度も上がらず、無理して苗を植えると根が張らず枯れてしまうのです。せつかく冬の間、雪の下で熟成された田んぼも焦るとすべてが無駄になってしまいうのです。

田起し作業が終わったら次は「代掻き作業」です。

起こされてフワフワになった田んぼに、ミネラルたっぷりの水が流し込まれます。それを機械で掻き雑ぜるとタプンタプンとしたプリンのような田んぼになります。

さあ田植えの開始。きれいに植えられた、小さくても元気な苗の隙間に映る山々は、本当にきれいです。やがてその苗が元気に成長してくると緑の絨毯を敷き詰めたようになり、そして黄金色の季節を迎え……。

その日が待ち遠しい父ちゃんは残雪の田んぼを眺め、農作業の遅れを心配し眉間のしわが深く長くなります。

「あんなに一生懸命降った雪だから、ちよつとやそつとじゃ消えねエて！豪雪だったから、お天道様が連休中は身体を休めろ！つて言ってくださってるんだよ！慌てない慌てない。米作りが出来るだけでもありがたいんだから。」

「そうだな、自然は母ちゃんみたいに文句言わないけど、逆らわず上手に付き合っているいいお米を作らなきゃな。」とにっこり。

自然の恐ろしさを目の当たりにし、当たり前前のことがどれだけ有り難いことか再認識出来ました。今年も美味しいお米を作って皆さんに食べて頂きたい。食べることが出来る幸せを一緒に感じて欲しいと願います。

(JA北魚沼 佐藤)



我が家に娘が一人増えました！
4月より新採用職員が仲間入りです。ちよつと自己紹介します。

皆様、はじめまして！新採用職員の野村と申します。

私は生まれも育ちも北魚沼で、県外の大学を卒業して再びこの地に帰ってきました。

魚沼に帰ってきて最初に思ったことは、やっぱりお米がおいしいということと魚沼の人がとても温かいということでした。魚沼は雪深い山里で生活に不便なこともありますが、それでも一度地元を離れて生活すると、故郷の良さが本当に身に染みます。

大学ではコシヒカリの有機栽培法の研究をしており（研究なんて大層なものではありませんが）、一年間田んぼの世話をしながら暮らしてきたので、これからまたお米に関係する仕事が出てきても嬉しく思っています。とはいえ、新しく知ることだらけなので、周りの皆様に叱咤激励を頂きながら日々成長して行きたいと思っています。どうぞこれから宜しくお願ひ致します。

来月号から「田んぼと新人の成長日記」をお送りします。

どうぞよろしくお願ひします。